研究区分	教員特別研究推進　地域振興

研　究 テーマ	河井家文書と日本政治（河井重蔵・弥八を中心に）				
研究組織	代　表　者	所属・職名	国際関係学部・教授	氏名	前山　亮吉
	研究分担者	所属・職名	国際関係学部・教授	氏名	森山　優
		所属・職名	千葉大学大学院国際学術研究院・教授	氏名	見城　悌治
		所属・職名	静岡県近代史研究会・会員等	氏名	北原　勤ほか２名
	発　表　者	所属・職名	国際関係学部・教授	氏名	前山　亮吉

講演題目

『河井弥八日記』1942 年より

研究の目的、成果及び今後の展望

本研究は、掛川市に残されている河井家文書を手がかりに、明治期と戦後の日本政治を中央・地方の両側面から多角的に照射し、政治史・地方史における新境地を開拓するものである。

本年度は、三年にわたって実施してきた 1942 年の日記と手帳の復刻作業と登場人物の人名録の作成を終え、大学院のワーキングペーパー#22-01 として出版することができた。

研究の過程で、明らかになったことは多いが、例をあげれば

① 甘藷増産運動の展開と報徳社

先行研究（前田寿紀「戦中・戦後における「大日本報徳社」の甘藷増産活動に関する研究⑴⑵」『淑徳大学

社会学部研究紀要』37、38、40、二〇〇三～二〇〇六）で詳細に記されているが、河井の日記から報徳社

の運動に対し積極的とはいえない役所も存在した点が注目される。1942 年の段階では食糧不足に対する認

識がまだまだ深まっていなかったとも推測できる（かなり逼迫している状況が日記には散見されるものの）

② 翼賛選挙（衆議院）と貴族院議員との関係（河井弥八が担った役割）

翼賛選挙に対し、河井がかなり冷静に対応していた（報徳社関係者への支援は当然だが）様子が窺え、具体的事例として注目される

③ 翼賛議会と貴族院の動向

先行研究では無風と評されてきた第八〇回帝国議会だが、貴族院がそれなりの抵抗を示していた事が日記の記述と近年出版された『松本学日記』（芙蓉書房、2021）で補完することで、立体的に確認された

④ 地方政財界との関係

詳細不明だった静岡銀行成立過程（静岡三十五銀行と遠州銀行の合併）において、従来の解釈とは異なり、初代頭取中村円一郎の就任が必ずしも自明の路線ではなかったこと、河井が一定の役割を果たしていたことが明らかとなった

いずれも今後の研究の深化が期待される内容である。今年度は、朝日新聞データベース『聞蔵』（静岡地方版も閲覧可能）を利用した調査が有効であった。県立図書館所蔵の『静岡新聞』は翼賛選挙の直前の時期（四月後半の半月）が欠落していたため、『朝日新聞』からしか得られない貴重なデータが得られたことは特筆すべきであろう。